

平成20年度第3回岐阜県事業評価監視委員会

【河川課所管事業審議資料】

- 再評価対象箇所一覧表 1
- 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について
総合流域防災事業 2
- 平成20年度 再評価実施箇所（附図）
総合防災整備事業（えにしかわ江西川） 3
- パワーポイント
総合防災整備事業（えにしかわ江西川） 4～8

平成20年度 再評価対象箇所一覧表
(大垣市)

番号	事業名	路線・河川名	箇所名 (市町村名)	工区名	採択 年度	完了 予定 年度	事業 全量	事業 実施 量	事業 概要 事業 実施 率	全体事業費 (百万円) 用地補償費 工事費等	実施済み額 (百万円)		進捗率 (%) 用地補償費 工事費等	経過年数	現在の安 全度 (1/年)	社会情勢 の 変化	地元の評 価・協力 体制	効果分析	対応方針	特記事項
											用地補償費	工事費等								
1	総合流域防災 事業	木曾川水系 準用河川 江西川	大垣市	江西川	H11 (S58)	H35	4,470m	2,100m	47%	2,140 - 2,140	957 - 957	45 - 45	25	概ね 1/1.2年	着工時よ りも都市 化が進行	協力的 である	10.60	継続		

○事業制度について	事業名	総合流域防災事業（準用河川）	
	事業目的	流域（圏域）単位で水害対策と土砂災害対策、ハード対策とソフト対策を一体的に実施し、豪雨災害に対し流域一体となった総合的な対策を推進する。 （一定計画により一定区間の浸水被害を未然に防止するため、河川改修を実施し国土の保全と民生の安定を図る）	
	採択基準	総事業費が概ね4億円以上24億円以内の準用河川に係る河川工事で、氾濫被害が防止される区域内の農耕地が60ha以上で、50戸以上の家屋又は5ha以上の宅地が存するもの。	
	概要 （メニュー）	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削工 ・護岸工 	
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目《B》	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋資産 ・家庭用品資産 ・事業所資産（償却・在庫資産） ・農漁家資産（償却・在庫資産） ・農作物資産（水田・畑） ・公共土木施設等
		その他項目	
	費用《C》の算定	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費と維持管理費の合計 ・評価対象期間は整備期間+50年とする ・現在価値化に用いる割引率は4%（B及びC共通） ・維持管理項目は、毎年定常的に支出される除草等、定期的に支出される維持修繕等の費用を50年間にわたり計上する 	
		費用便益費の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比が1以上

平成 20 年度 再評価実施箇所（附図）

番 号		事 業 名 (路線・河川等)	総合流域防災事業（準用河川） (江西川)	
事業実施箇所	大垣市	事業主体	大垣市	
採択年度	平成 11 年（昭和 58 年）	完成予定年度	--- 平成 35 年	
再評価の実施基準	事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業			
事業目的	江西川は、大垣市の南部を流下する河川であり、護岸構造物が無く、河積が狭小で流下能力が不足しているため、過去にたびたび浸水被害が発生している。本事業では掘削・護岸整備により河積の拡大・堤防保護を実施し、洪水を安全に流し浸水被害の軽減を図ることを目的とする。			
事業概要	総合流域防災事業（準用河川）江西川 事業延長：L=4,470m 事業内容：掘削工、護岸工			

概 要 図



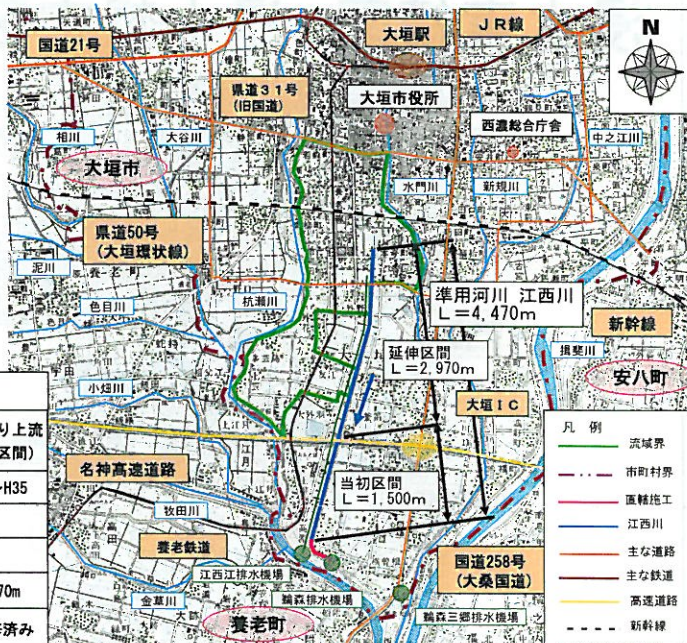
事業再評価



総合流域防災事業(準用河川)

えにしがわ
江西川

流域図



準用河川 江西川		
	名神より下流 (当初全計)	名神より上流 (延伸区間)
事業期間	S58~H10	H11~H35
流域面積	4.34km ²	
流路延長	4,900m	
計画延長	1,500m	2,970m

※下流430mは直轄事業にて改修済み

- 凡例
- 流域界
 - 市町村界
 - 直轄施工
 - 江西川
 - 主な道路
 - 主な鉄道
 - 高速道路
 - 新幹線

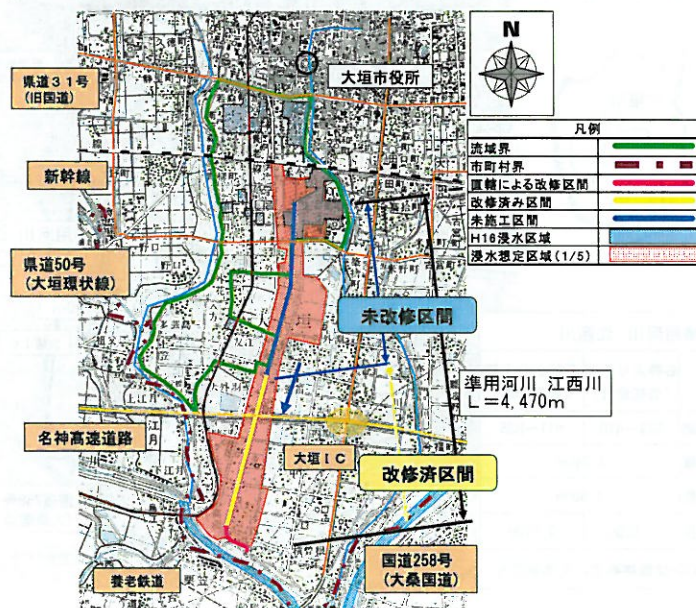
過去の主な水害

被災年月日	浸水面積	床上浸水	床下浸水
H12.9.11	2.8ha	—	10戸
H14.7.10	0.4ha	—	7戸
H16.10.20	62.9ha	7戸	253戸
H17.7.4	0.7ha	—	7戸

H16.10 台風23号で浸水した道路(大垣市本今町地内)



浸水実績図、浸水想定区域図

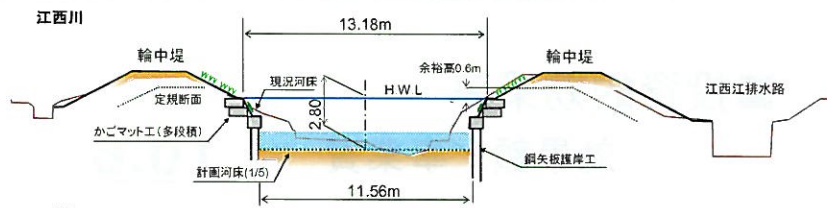


事業の概要

現況 現況河川の流下能力不足を原因とする浸水被害が発生。
護岸が無く、堤防の弱体化が進んでいる。



概ね5年に1回の洪水を安全に流すことができるよう、
断面の拡幅・護岸整備を実施



代表横断面図(釜笛橋付近)

事業の進捗の見込み

進捗率 (H19末時点)

改修済: 47%

完成予定

平成35年度



費用対効果分析

■事業の効果

- ・本事業を行うことにより軽減される被害

家屋資産の被害軽減便益…… 効果全体の 36%

事業所資産の被害軽減便益… 効果全体の 48%

その他の被害軽減便益…… 効果全体の 16%

■投資的效果率

$$\text{効果額} / \text{事業費} = \underline{\underline{10.6}}$$

コスト縮減、代替案

・コスト縮減の方策

現在: 矢板型式の見直し(従来の鋼矢板⇒幅広鋼矢板)



今後: 新技術の活用(幅広鋼矢板⇒ハット型鋼矢板)

・代替案の検討

- ① 放水路案
- ② 貯留施設案(調整池)



コスト高

現在の
河川改修計画
が**最善策**

評価結果



事業を継続することが妥当